

農作物病害虫発生現況情報（8月） 水稻編

1 いもち病

(1) 葉いもち

8月上旬の巡回調査（全県：176圃場）では、発生圃場率は7.4%（平年5.2%）で平年並、上位3葉における発生圃場率は11.6%（平年8.0%）で、平年より高かった（図1、2）。

(2) 穂いもち

8月下旬の巡回調査（74圃場、沿岸部除く）では、発生圃場率は5.4%（平年6.1%）で平年並であった（図3）。

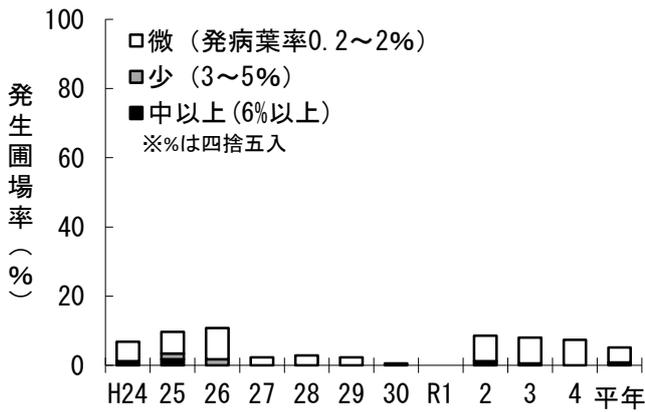


図1 葉いもち発生圃場率の年次推移（8月上旬）

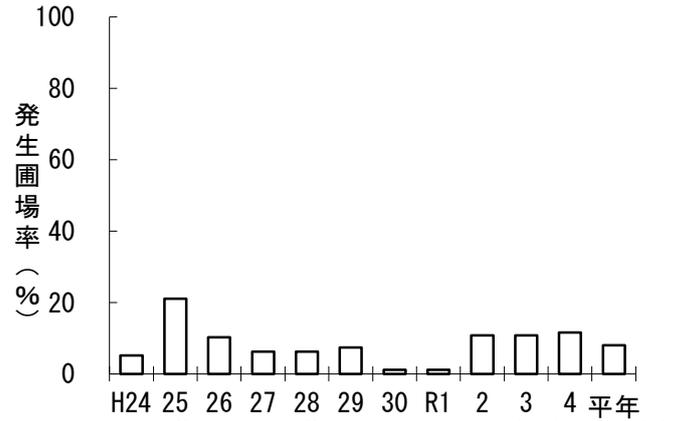


図2 上位3葉における葉いもち発生圃場率（8月上旬）

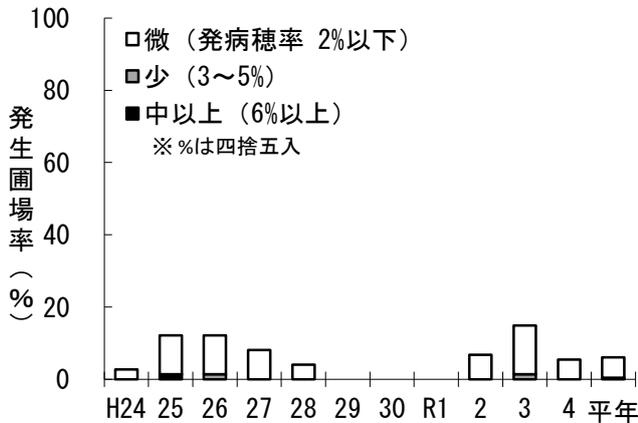


図3 穂いもち発生圃場率の年次推移（8月下旬）

2 紋枯病

(1) 8月上旬の巡回調査では、発生圃場率は9.7%（平年17.2%）で平年よりやや低かった（図4）。

(2) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は43.2%（平年39.3%）で平年並であった（図5）。

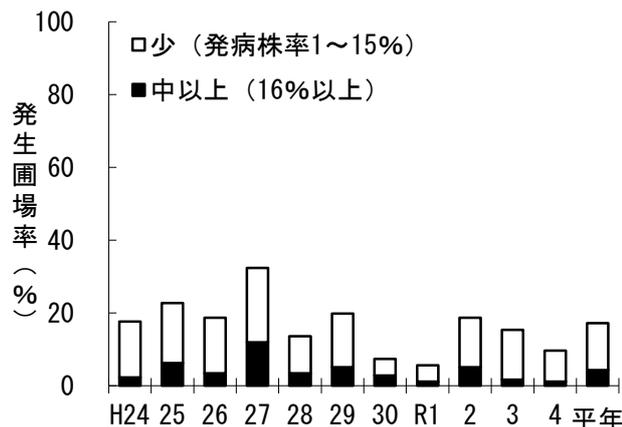


図4 紋枯病発生圃場率の年次推移（8月上旬）

※ 病斑が第3葉鞘以上に達しているものを発病とした。

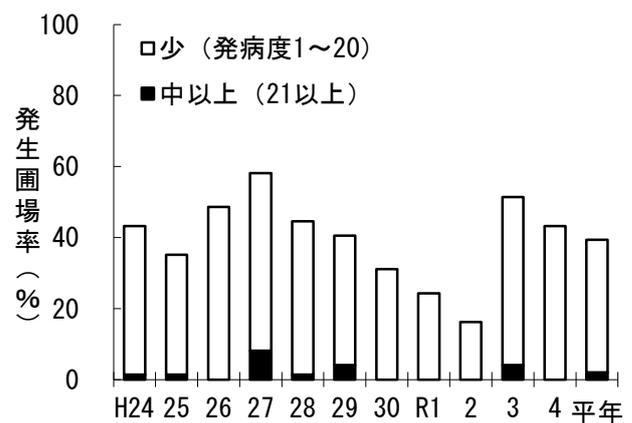


図5 紋枯病発生圃場率の年次推移（8月下旬）

※ 病斑が第3葉鞘以上に達しているものを発病とした。

3 稲こうじ病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は12.2%（平年4.9%）で平年より高かった（図6）。

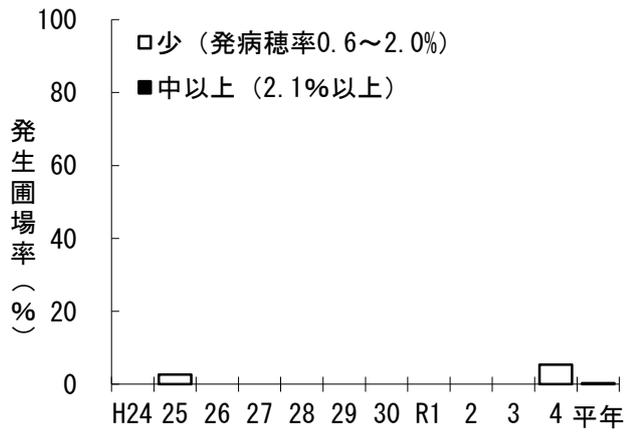


図6 稲こうじ病発生圃場率の年次推移(8月下旬)

4 その他病害

(1) 8月下旬の巡回調査では、葉鞘褐変病の穂における発生は確認されなかった。

5 斑点米カメムシ類

(1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、8月第4半旬にアカスジカシカメ成虫の発生ピークが見られた（図7）。

(2) 8月上旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率45.5%（平年40.0%）、圃場あたり虫数2.1頭（平年2.7頭）といずれも平年並だったが、程度が高い圃場は26.1%（平年20.5%）と平年よりやや高かった（図8左）。

(3) 8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率28.4%（平年35.1%）、圃場あたり虫数1.9頭（平年2.3頭）といずれも平年並だった（図8右）。

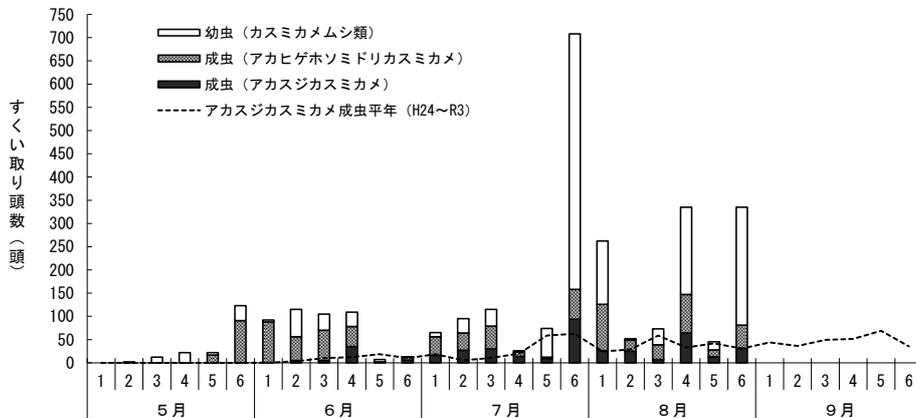


図7 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるカシカメムシ類の発生推移（すくい取り 往復20回振）

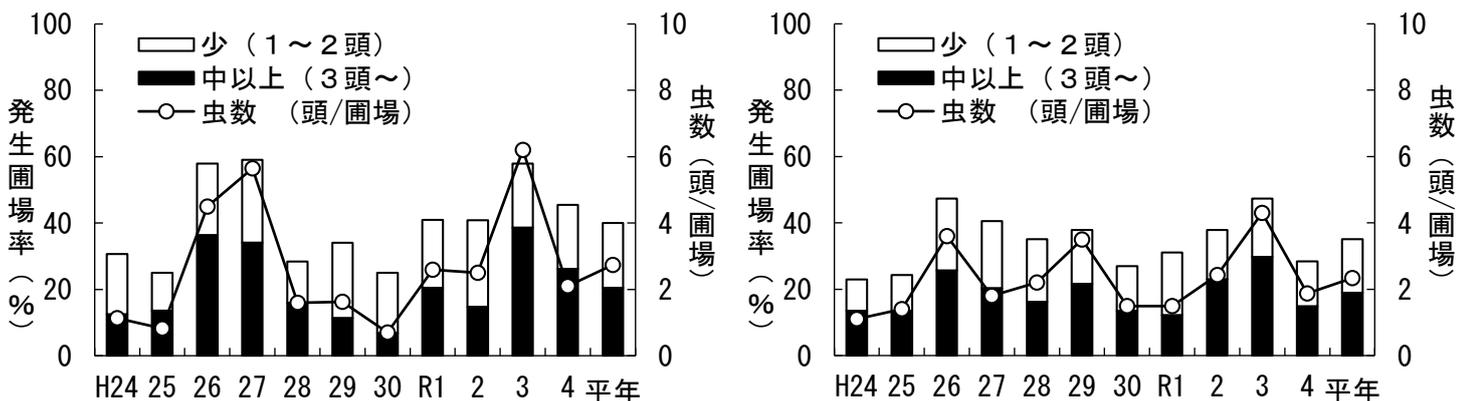


図8 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移
（左：8月上旬、右：8月下旬、本田内すくい取り、往復20回振）

6 ウンカ類

(1) セジロウンカ

8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は66.2%（平年30.3%）で平年より高かったが、発生程度少以上の圃場は見られなかった（図9左）。

(2) ヒメトビウンカ

8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は74.3%（平年63.7%）で平年よりやや高かったが、発生程度少以上の圃場は見られなかった（図9右）。

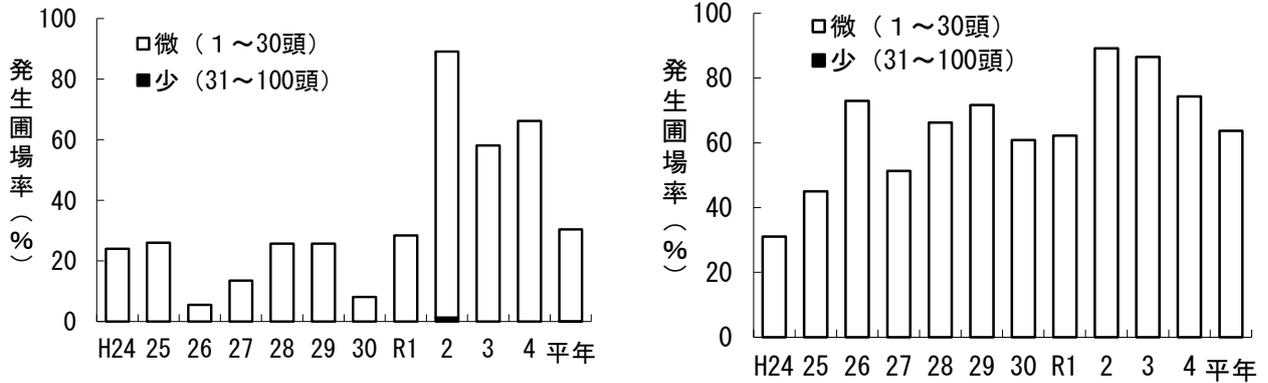


図9 ウンカ類の発生圃場率の年次推移

（左：セジロウンカ、右：ヒメトビウンカ、8月下旬、本田内すくい取り、往復20回振）

7 イナゴ類

(1) 8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は20.3%（平年53.1%）で平年より低かった（図10）。

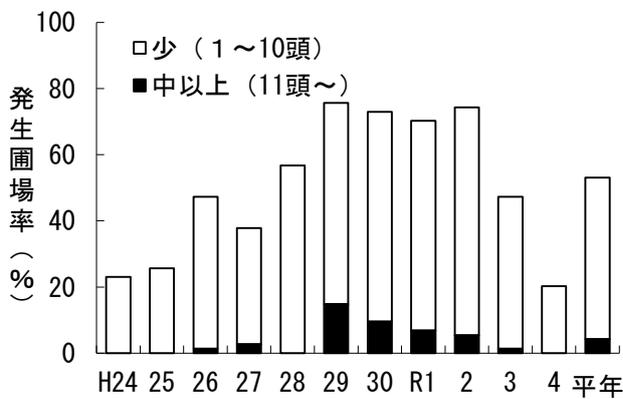


図10 コバネイナゴの発生圃場率の年次推移

（8月下旬、本田内すくい取り、往復20回振）

8 ツマグロヨコバイ

(1) 8月上旬の本田内すくい取り調査では、発生は確認されなかった。

農作物病害虫発生現況情報（8月）りんご編

1 斑点落葉病

- (1) 8月後半の巡回調査でのふじの発生園地率は41.9%（平成60.0%）で平年よりやや低く、発生程度中以上の園地率は16.1%（平成17.4%）で平年並だった（図1）。
 (2) ふじの発病度は、平年よりやや低く推移している（図2）。

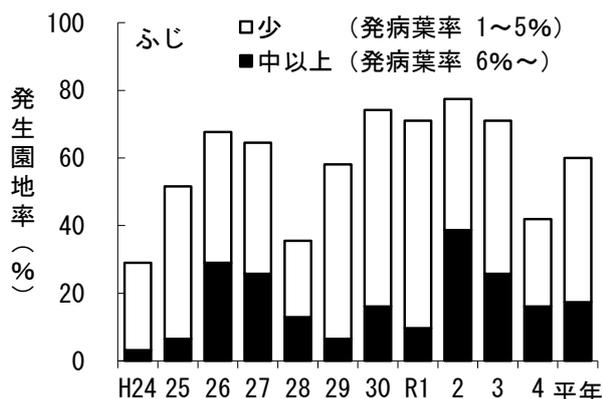


図1 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（ふじ、8月後半、徒長枝上位10葉）

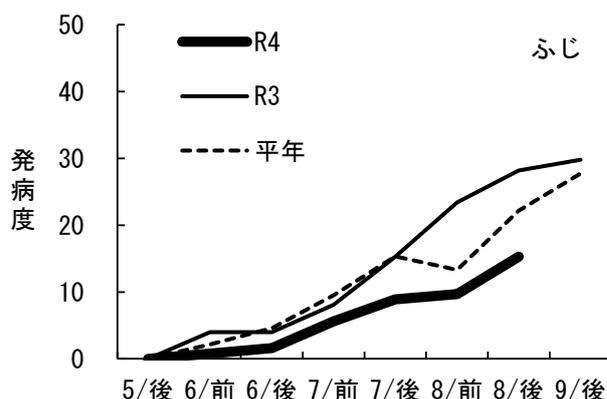


図2 斑点落葉病の発病度の時期別推移（ふじ）
 ※「発病度」= (4A+3B+2C+D) × 100 / (調査園地数 × 4)、
 A: 発病葉率21%～、B: 11～20%、C: 6～10%、D: 1～5%の園地数

2 褐斑病

- (1) 8月後半の巡回調査での発生園地率は19.4%（平成12.9%）、発生程度中以上の園地率は9.7%（平成4.5%）であり、ともに平年よりやや高かった（図3）。
 (2) 発病度は、8月前半まで平年並に推移したものの、8月後半になって平年を上回った（図4）。

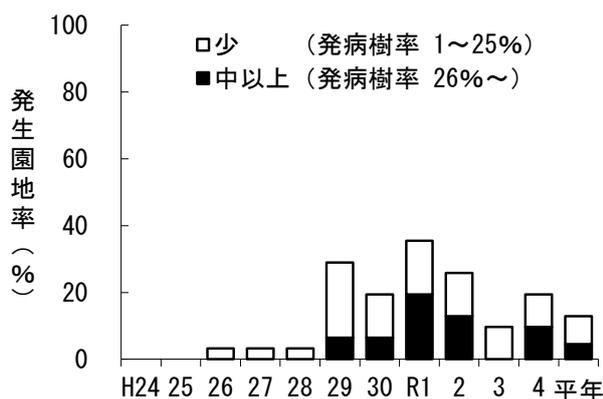


図3 褐斑病の発生園地率の年次推移（8月後半）

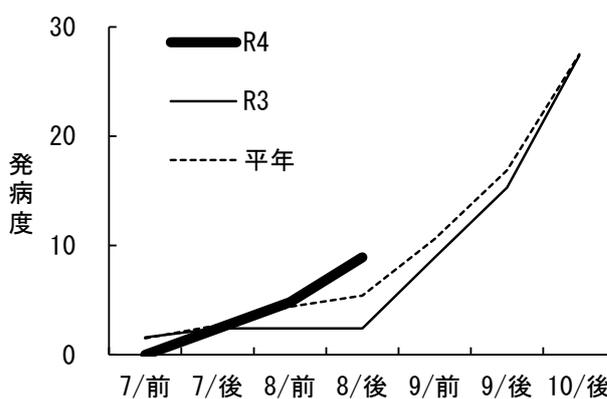


図4 褐斑病の発病度の時期別推移
 ※「発病度」= (4A+3B+2C+D) × 100 / (調査園地数 × 4)、
 A: 発病樹率76%～、B: 51～75%、C: 26～50%、D: 1～25%の園地数

3 黒星病

- (1) 8月後半の巡回調査での発生園地率は19.4%（平成9.4%）で平年より高かったが、発生程度中以上の園地率は3.2%（平成2.6%）で平年並だった（図5）。
 (2) 地域別の発生園地率は、県北部は20.0%（平成22.0%）で平年並だったが、県中部は26.7%（平成11.3%）で平年より高く、県南部では1園地で発生が見られた（図6）。

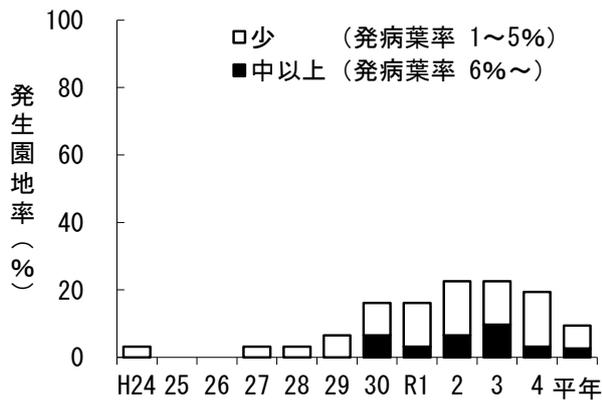


図5 黒星病の発生園地率の年次推移
(8月後半、徒長枝葉)

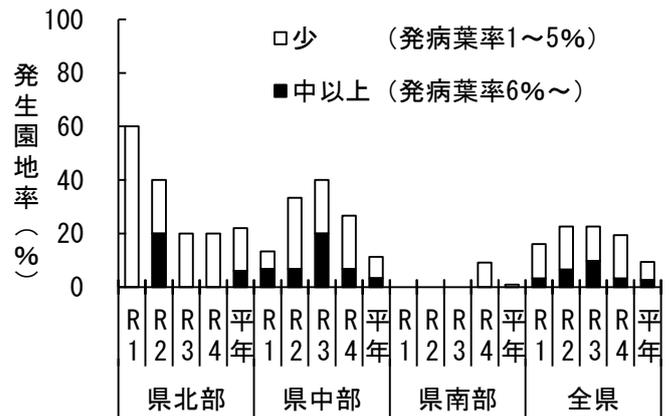


図6 黒星病の地域別発生園地率
(8月後半、徒長枝葉)

4 リンゴハダニ

- (1) 8月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は35.5% (平年23.2%)、発生程度中以上の園地率は16.1% (平年9.4%)で、ともに平年よりやや高かった (図7)。
- (2) 目通りの時期別発生度は、6月前半までは平年並であったが、6月後半以降は平年より高く推移している (図8)。

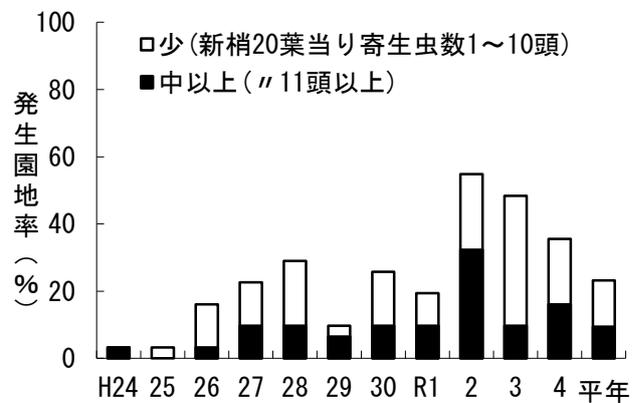


図7 リンゴハダニの発生園地率の年次推移
(8月後半、目通り)

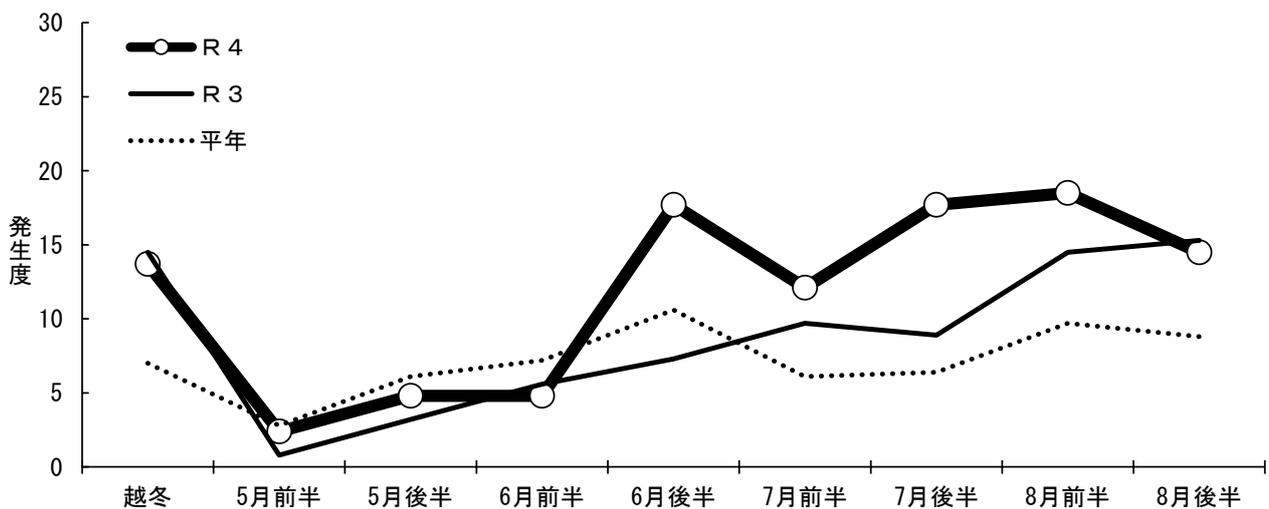


図8 リンゴハダニの時期別発生度の推移 (目通り)

※発生度：(4 甚+3 多+2 中+少) ×100 / (調査圃場数×4)

(発生程度の評価基準は時期によって異なる)

5 ナミハダニ

- (1) 8月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は35.5%（平年55.8%）、発生程度中以上の園地率は12.9%（平年24.5%）で、ともに平年よりやや低かった（図9）。
- (2) 地域別では、県北部及び県中部で発生程度中以上の園地率が低かった（図10）。
- (3) 目通りの時期別発生度は、8月後半から平年より低く推移している（図11）。

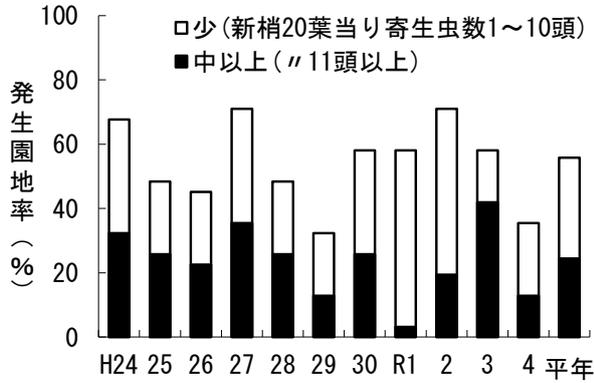


図9 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (8月後半、目通り)

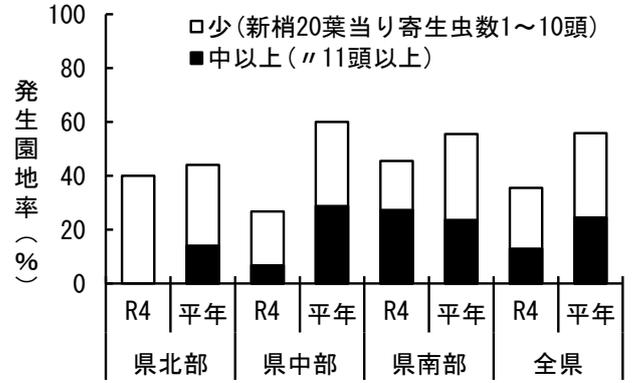


図10 ナミハダニの地域別発生状況 (8月後半、目通り)

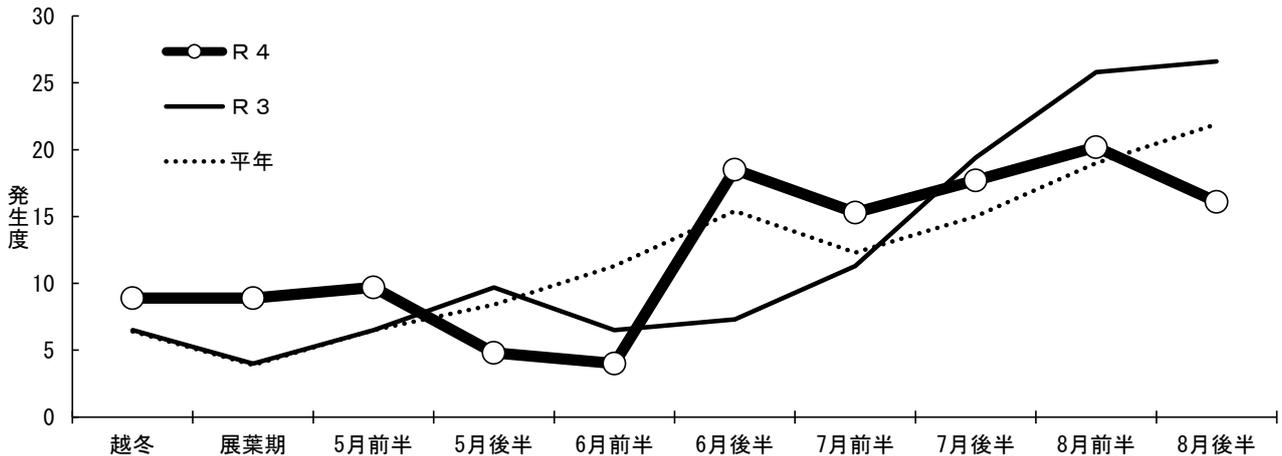


図11 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

※発生度：(4基+3多+2中+少) ×100 / (調査圃場数×4)
 (発生程度の評価基準は時期によって異なる)

6 ハマキムシ類

- (1) 8月前半の巡回調査では、被害は確認されなかった（図12）。

7 キンモンホソガ

- (1) 8月後半の巡回調査での第3世代の発生園地率は25.8%（平年6.1%）で、平年より高かった（図13）。

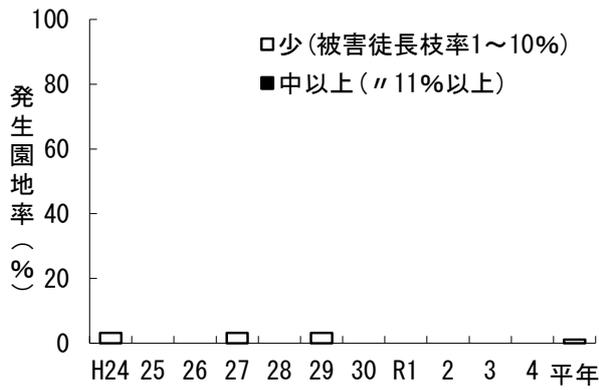


図12 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移 (8月前半)

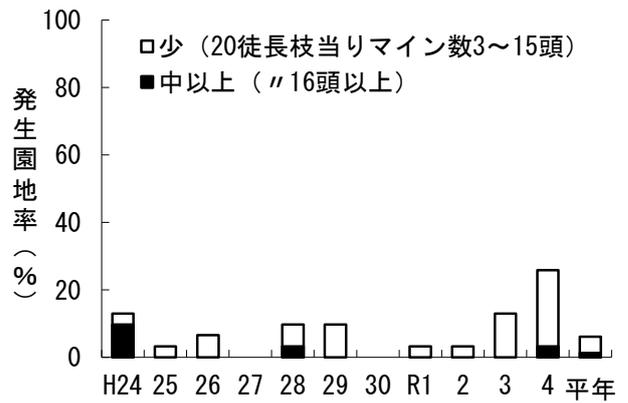


図13 キンモンホソガの発生園地率の年次推移 (8月後半)

8 果樹カメムシ類

- (1) 8月後半の巡回調査での被害果発生園地率は25.8% (平年29.4%) で、平年並であった (図14)。
- (2) 被害果の時期別発生園地率は、7月前半まで平年より高かったが、7月後半以降は平年並に推移している (図15)。
- (3) クサギカメムシの予察灯への誘殺数は、8月は平年より少なかった (図16)。
- (4) チャバネアオカメムシの基準圃場および現地の集合フェロモントラップへの誘殺数は、8月は平年より少なかった (図17)。

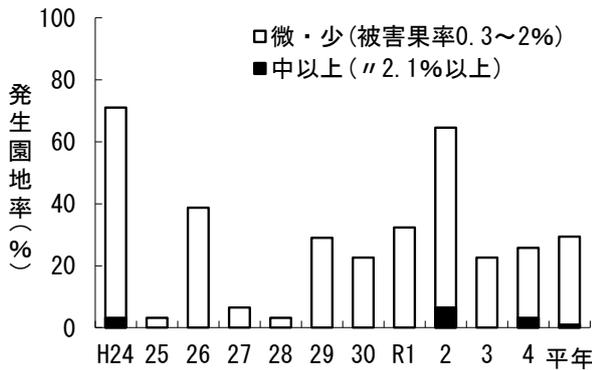


図14 果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移 (8月後半)

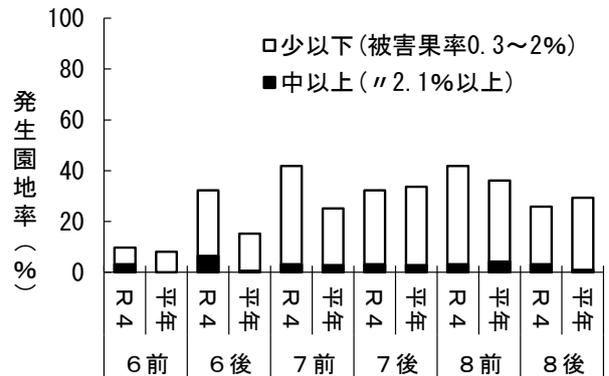


図15 果樹カメムシ類被害果の時期別発生園地率の推移

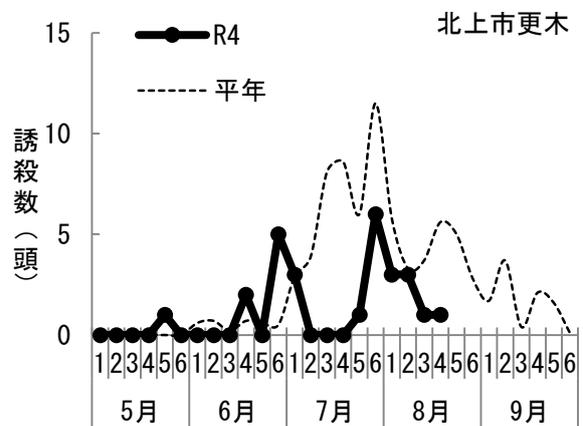
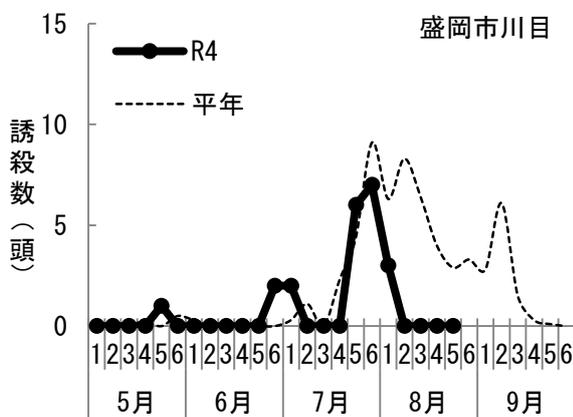


図16 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況 (左：盛岡市川目、右：北上市更木)

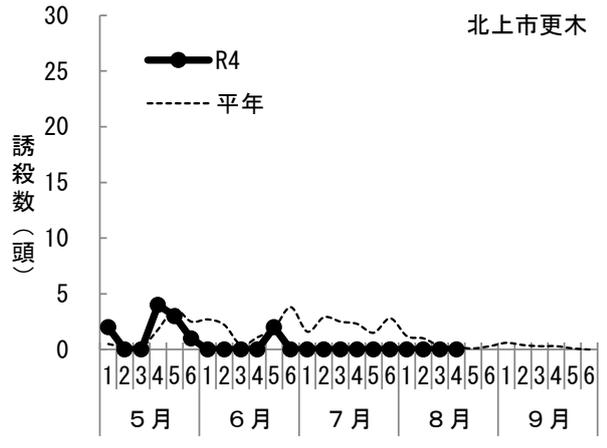
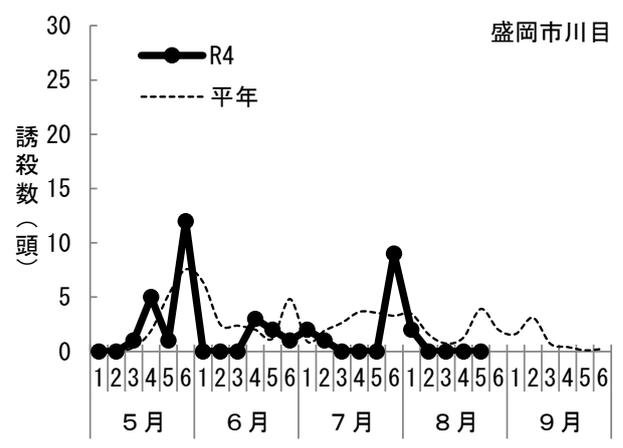
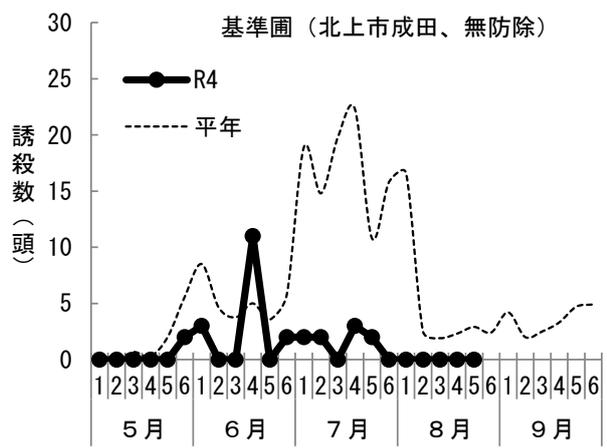


図 17 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況 (左上：基準圃場 (北上市成田・無防除)、右上：盛岡市川目、左下：北上市更木)

農作物病害虫発生現況情報（8月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は84.6%（平年58.3%）で、平年より高かった（図1）。

2 うどんこ病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は7.7%（平年35.9%）で、平年より低かった（図2）。

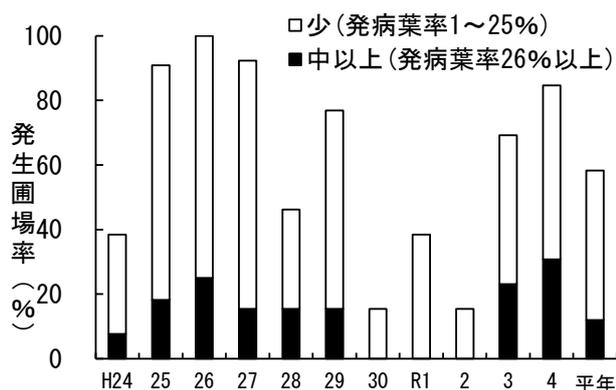


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

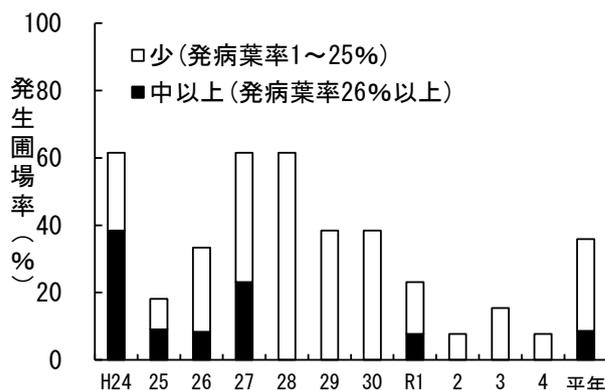


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

3 褐斑病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は92.3%（平年44.4%）、発生程度が中以上の圃場率は38.5%（平年25.8%）で、発生圃場率、程度とも平年より高かった（図3）。

4 炭疽病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年67.2%）、発生程度が中以上の圃場率は23.1%（平年11.0%）で、発生圃場率、程度とも平年より高かった（図4）。

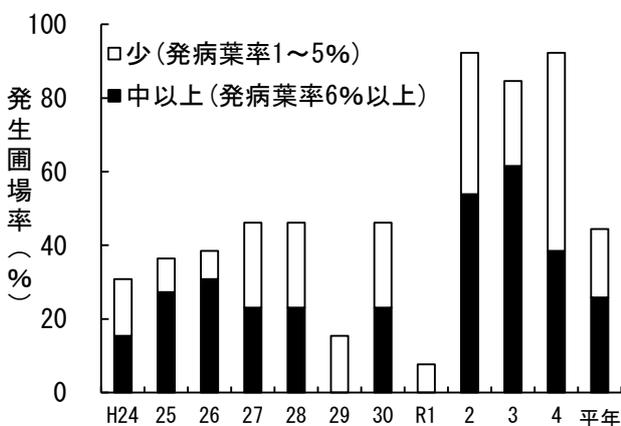


図3 褐斑病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

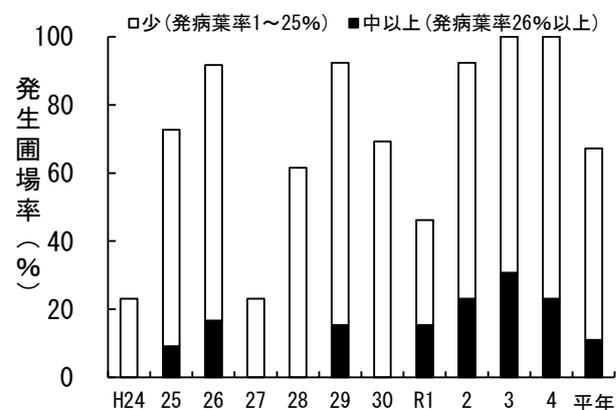


図4 炭疽病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

5 斑点細菌病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は30.8% (平年17.8%) で、平年より高かったが、発生程度の高い圃場はなかった (図5)。

6 黒星病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は7.7% (平年17.1%) で、平年よりやや低かった (図6)。

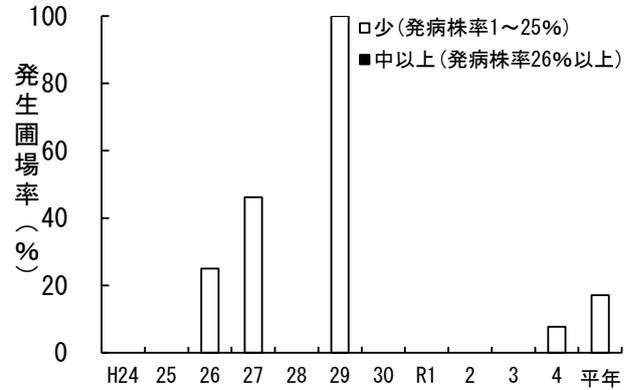
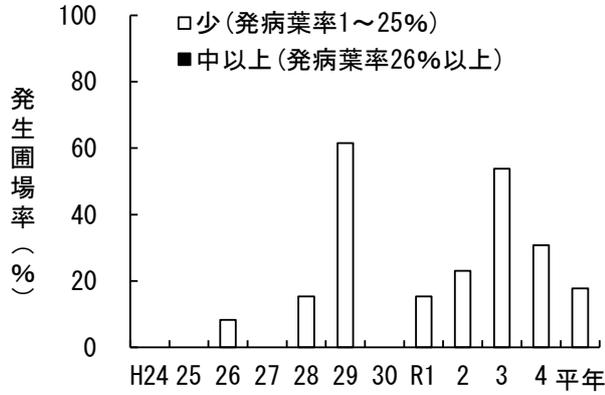


図5 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

図6 黒星病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

7 アブラムシ類

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は7.7% (平年8.5%) で、平年並であった (図7)。

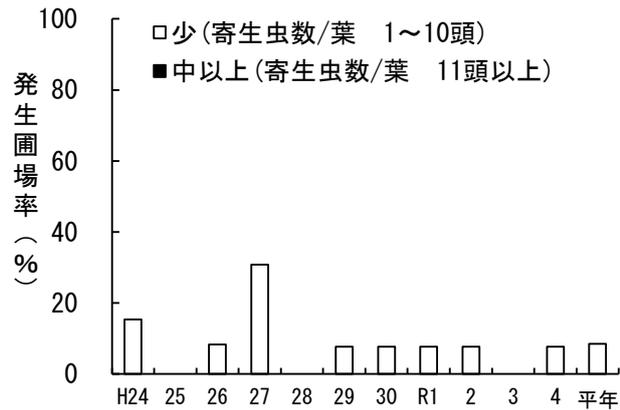


図7 アブラムシ類の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（8月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、8月第1半旬にピークが見られた（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、8月第5半旬に平年より多くなった（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、8月は平年並か平年より少なく推移した（図3）。
- (4) 8月中旬の巡回調査では、産卵は確認されなかった（平年20.2%、図4）。幼虫発生圃場も確認されなかった（平年34.7%、図5）。

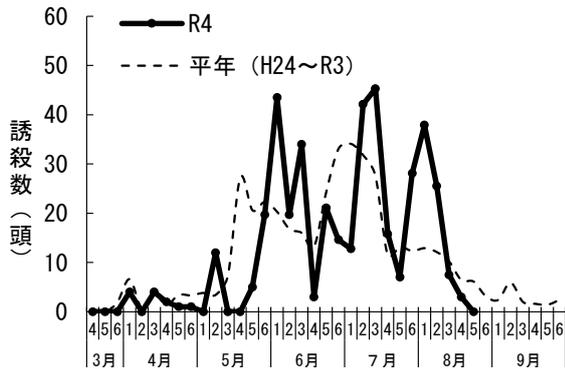


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

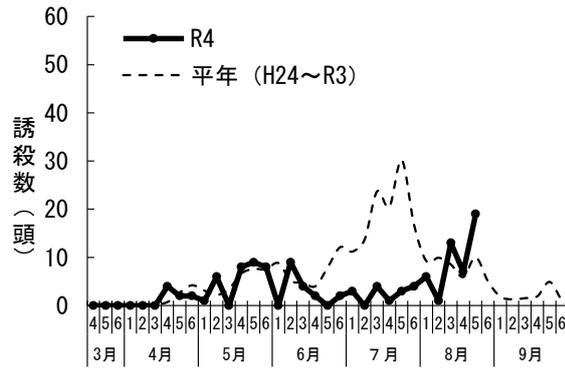


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

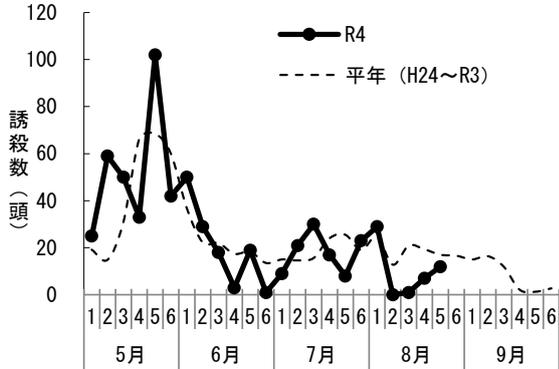


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

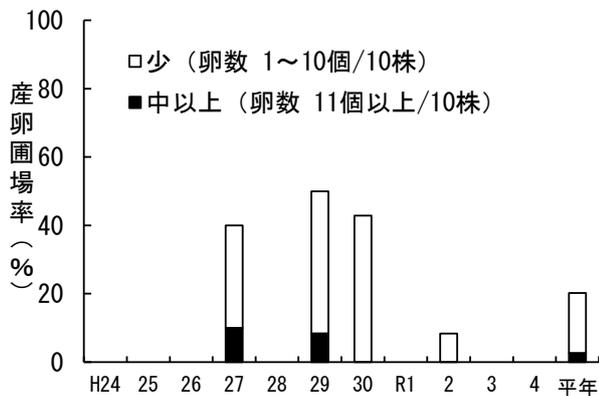


図4 コナガ産卵圃場率の年次推移（8月中旬）

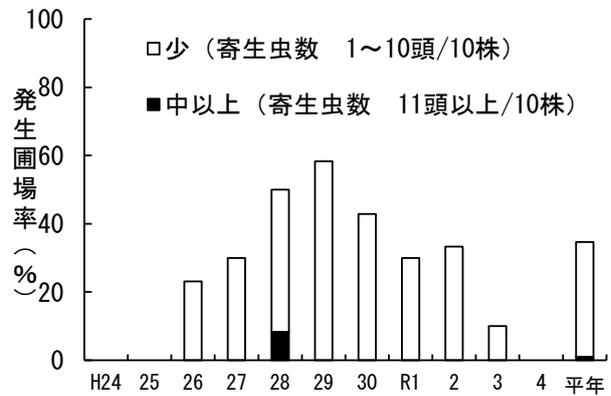


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（8月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、8月には確認されなかった（図6）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、8月第3半旬にピークが見られた（図7）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、8月第3半旬にピークが見られた（図8）。
- (4) 8月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は8.3%（平年18.9%）で、平年より低かった（図9）。

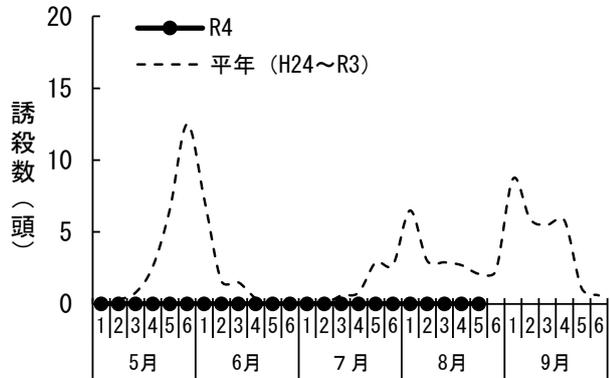


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガの誘殺状況

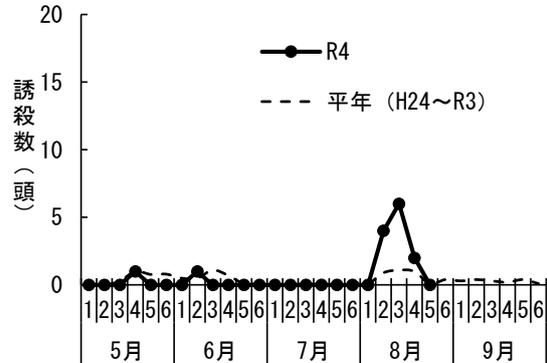


図7 軽米町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

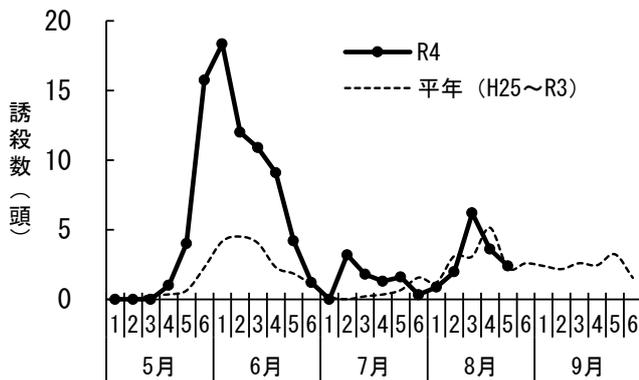


図8 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

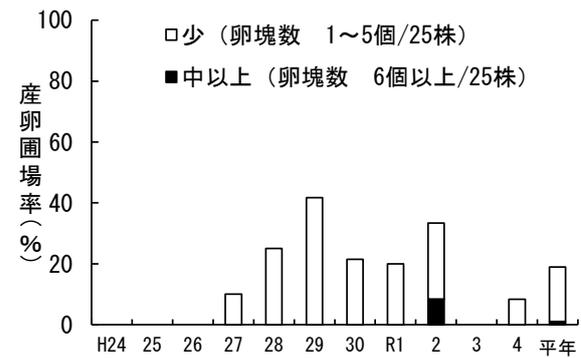


図9 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（8月中旬）

3 タマナギンウワバ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、8月第3半旬に大きく増加した（図10）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、ほぼ平年並に推移した（図11）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年並か平年より少なく推移した（図12）。
- (4) 8月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は16.7%（平年20.1%）で、平年並であった（図13）。

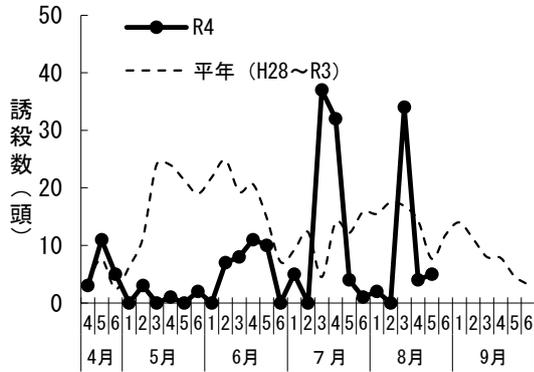


図10 基準圃場（北上市成田）におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

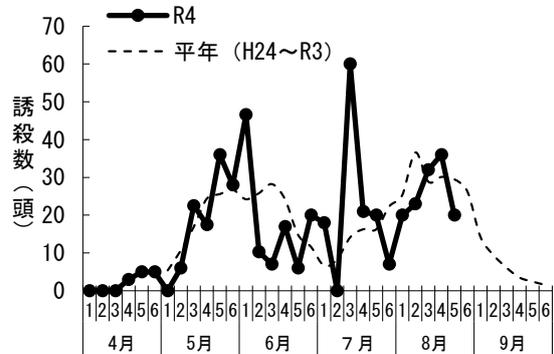


図11 軽米町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

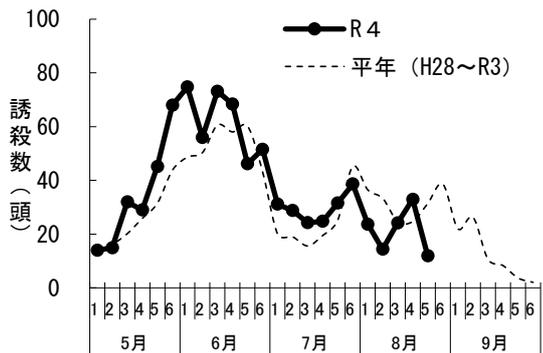


図12 岩手町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

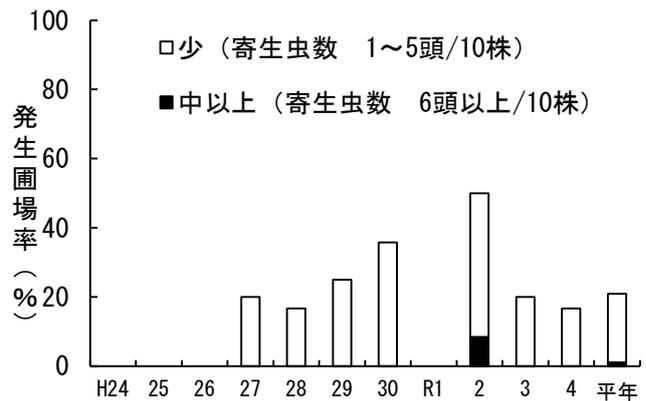


図13 ウワバ類幼虫発生圃場率の年次推移（8月中旬）

4 モンシロチョウ

- (1) 8月中旬の巡回調査では、幼虫の発生は確認されなかった。（平年21.6%、図14）。

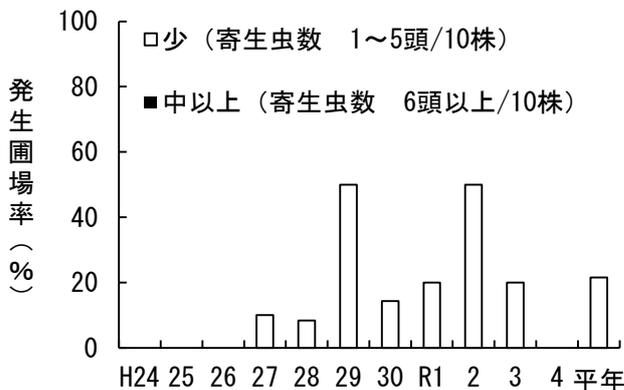


図14 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移（8月中旬）

農作物病害虫発生現況情報（8月） ねぎ編

1 さび病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は50.0%（平年29.3%）で平年より高かったが、発生程度中以上の圃場は確認されなかった（平年8.4%、図1）。

2 べと病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年3.2%、図2）。

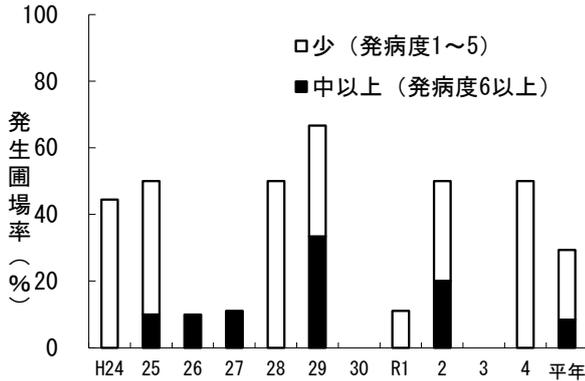


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

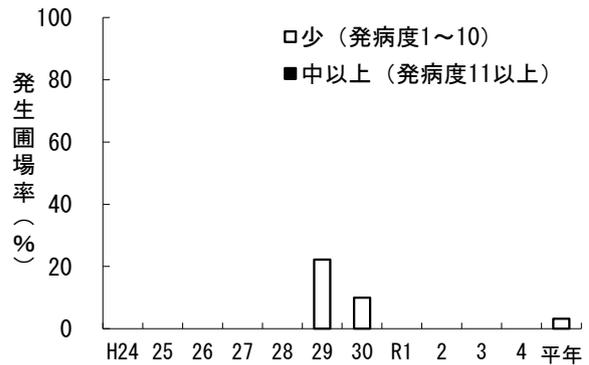


図2 べと病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

3 黒斑病・葉枯病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年74.7%）であり、平年より高かった（図3）。

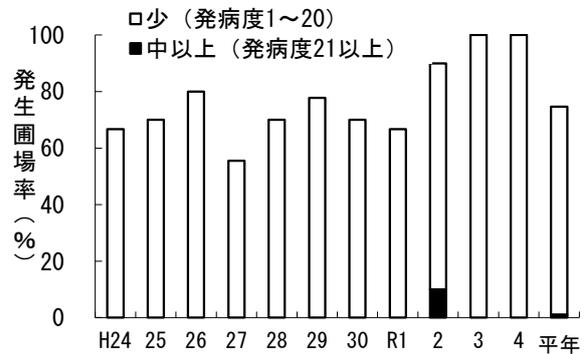


図3 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

4 ネギコガ

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は40.0%（平年55.2%）であり、平年よりやや低かった（図4）。

(2) 時期別の被害葉率は、8月上旬・下旬ともに平年より低かった（図5）。

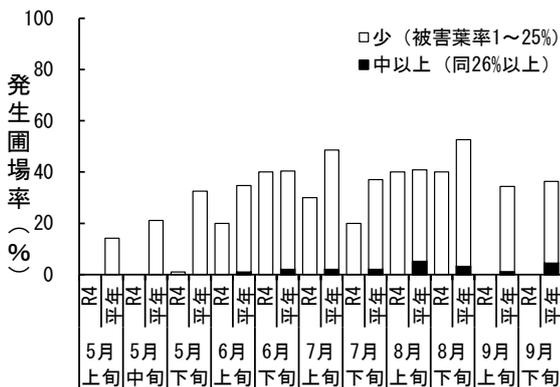


図4 ネギコガの発生圃場率の時期別推移

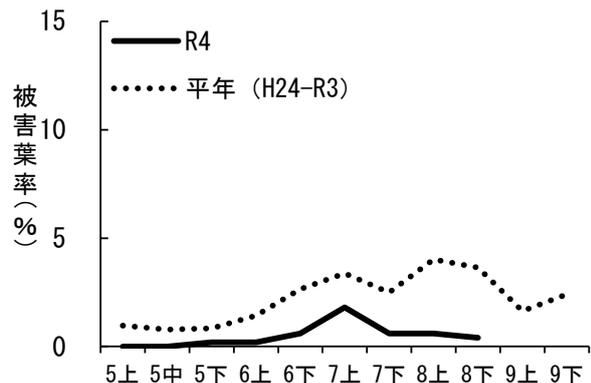


図5 ネギコガ被害葉率の時期別推移

5 ネギハモグリバエ

- (1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は80.0%（平年77.2%）であり、平年並だった。被害程度中以上の圃場は確認されなかった（平年31.2%、図6）。
- (2) 時期別の被害度は、8月上旬・下旬ともに平年より低かった（図7）。

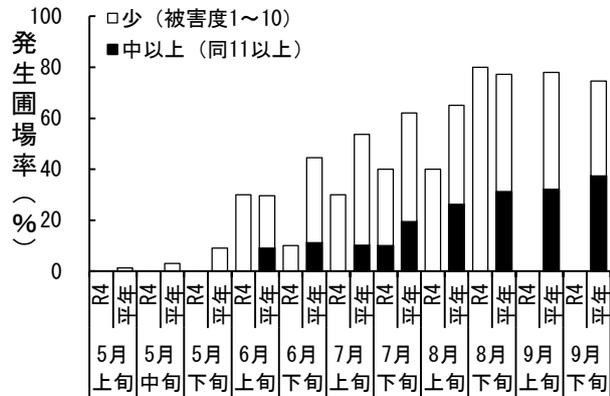


図6 ネギハモグリバエの発生圃場率の時期別推移

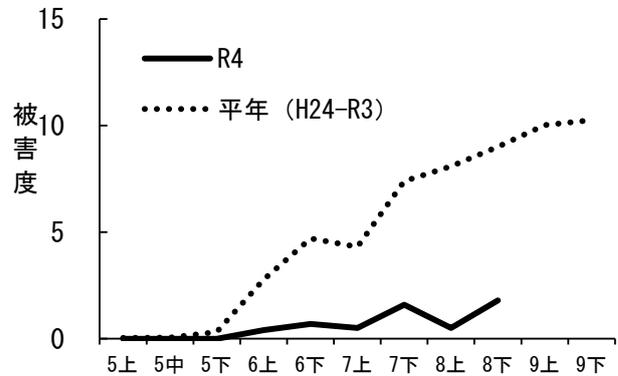


図7 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

【被害度】調査株の被害程度を甚・多・中・少・無の5段階で評価し、次式により算出

$$\text{被害度} = \frac{(\text{甚の株数} \times 4 + \text{多の株数} \times 3 + \text{中の株数} \times 2 + \text{少の株数})}{(\text{調査株数} \times 4)} \times 100$$

6 ネギアザミウマ

- (1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年87.8%）、発生程度中以上の圃地率は80.0%（平年50.9%）で、ともに平年よりやや高かった（図8）。
- (2) 時期別の被害度は、平年並に推移している（図9）。

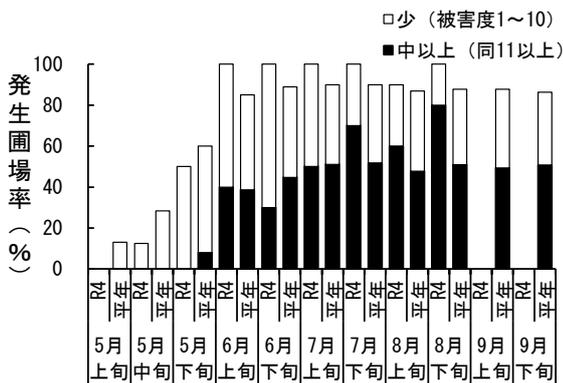


図8 ネギアザミウマの発生圃場率の時期別推移

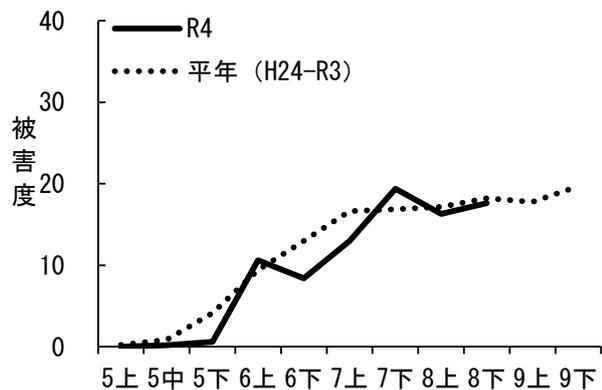


図9 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移

農作物病害虫発生現況情報（8月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は53.8%（平年23.6%）、採花部での発生圃場率は30.8%（平年7.2%）であり、いずれも平年より高かった（図1）。

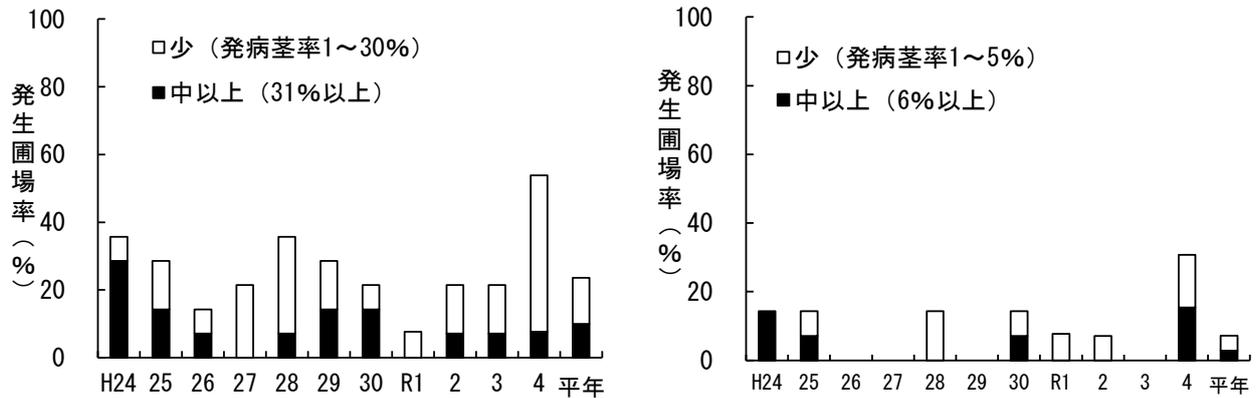


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（左：発病茎率、右：採花部での発病茎率、8月下旬）

2 褐斑病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年2.9%、図2）。

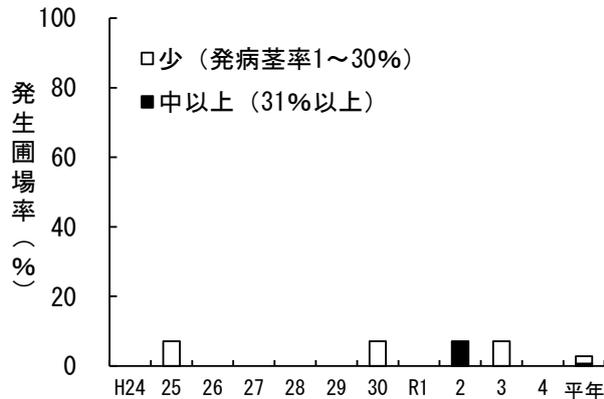


図2 褐斑病の発生圃場率の年次推移（8月下旬）

3 花腐菌核病

- (1) 8月第5半旬に、八幡平市で子実体Ⅲ型が確認された。
- (2) 8月下旬の巡回調査では、発病は確認されなかった。

4 ハダニ類

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は30.8%（平年29.5%）で平年並であり、発生程度の高い圃場や寄生虫数の多い圃場は確認されなかった（図3）。

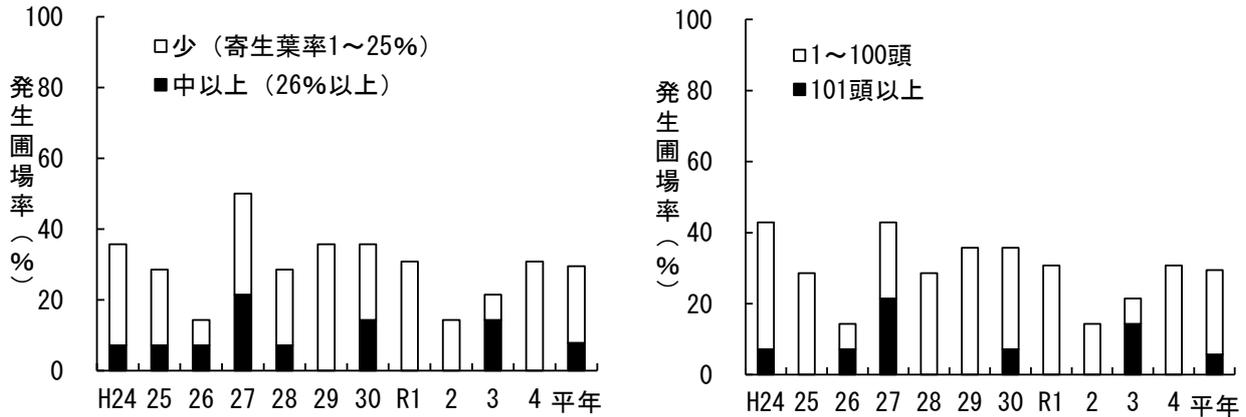


図3 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（左：寄生葉率、右：寄生虫数/80葉中、8月下旬）

5 リンドウホソハマキ

(1) 8月下旬の巡回調査では、潜葉痕の発生圃場率は7.7%（平年42.3%）で平年より低く、生長部および茎部の被害は確認されなかった（平年20.2%、図4）。

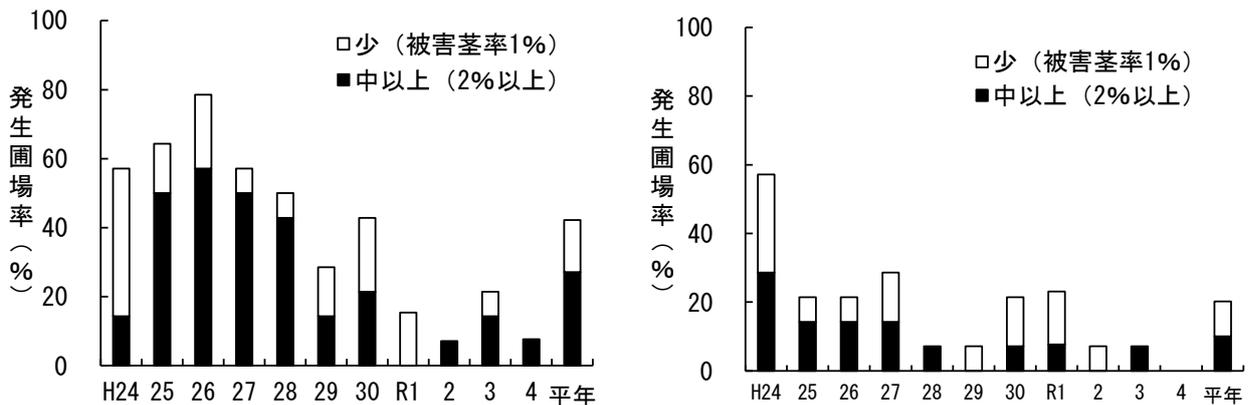


図4 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移（左：潜葉痕、右：生長部・茎部、8月下旬）

6 アザミウマ類

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は62.5%（平年75.9%）で、平年よりやや低かった（図5）。

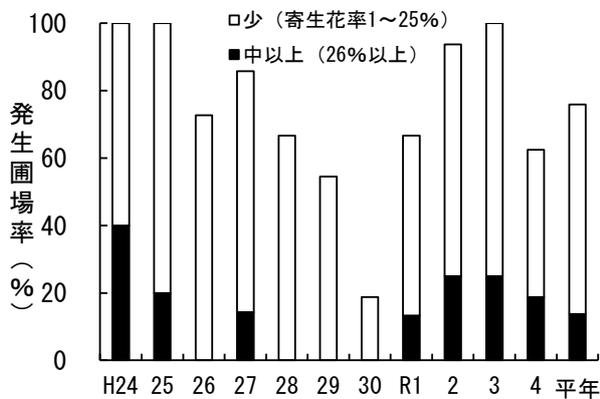


図5 アザミウマ類の発生圃場率の年次推移（8月下旬）

7 アブラムシ類

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。